



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：親クルド系政党「平和民主党」議員団の第4次イムラル島訪問
(4月4日付現地報道)

4日付現地報道は親クルド系政党「平和民主党（BDP）」議員団による第4次イムラル島訪問が行われたと報じている。その概要は以下のとおり。

1. (1) BDPの議員団は3日、イムラル島刑務所を訪問し、同刑務所に収監されているクルディスタン労働者党（PKK）のオジャラン指導者と面談した。
(2) 訪問したのは、デミルタシュ BDP 共同党首、ペルヴィン・ブルダン議員及びスッル・シュウレイヤ・オンデル議員（この編成は第3次イムラル島訪問団と同様）である。
(3) この訪問でオジャラン指導者が議員団に託したメッセージは、翌4日にシャンルウルファ県ハルフェティ地区オメルリ村で開催された、オジャランの64回目の誕生日を祝う式典において、議員団によって読み上げられた。同村はオジャランの生誕地であり、4日はオジャラン氏の誕生日であった。
2. オジャラン指導者の誕生日式典で読み上げられたメッセージの概要は以下のとおり。
(1) 「平和のためのプロセス」が続いている間は、一滴たりとも血を流させてはならない。
(2) 自分（オジャラン）は65歳になった。自分は自分の責務を果たした。これからは諸君の番だ。
(3) これ（平和のためのプロセス）は、我々が人民に提示することが出来た最も大きな出来事だ。今日は自分の誕生日であるのみならず、人民再生の日である。
(4) 自分は富者であれ貧者であれ、老人であれ若者であれ、男性であれ女性であれ、己を名誉と節度あるものと自負する人々に対し、「平和のためのプロセス」への参加と貢献を呼び掛ける。
3. (1) 一部報道は、今回の訪問に際しオジャラン指導者が「PKKは、武装を放棄し法的措置を待つことなく撤退するべきだ」と述べたと報じたが、デミルタシュ党首はこの報道を否定した。
(2) デミルタシュ党首は、「PKKの武装蜂起しての撤退について、我々はオジャランから何らの明確なメッセージも受け取っていない」としている。
(3) デミルタシュ党首は「オジャラン指導者は「平和のためのプロセス」についての新たな手紙を書いて下り、我々はこの手紙を近日中に受け取れるものと考えている。この手紙を受け取り、その返事をイムラル島に返すまで、この問題（武装解除・撤退）について発言するのは誤りだ」と述べた。